

【PostgreSQL版RS_Baseの導入方法】

1) usr ホルダーをPostgreSQLが動作するものに変更する。

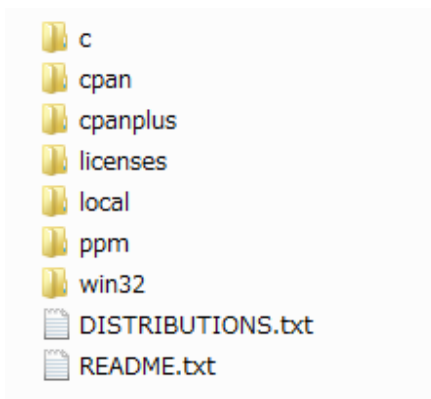
現在の Drive:¥usr ホルダーを Drive:¥usr5.6 に変更した後、

Postgres対応版 Strawberry Perl5.10

<http://rsbase.net/version/strawberry/usr.zip> (44MB)

をダウンロード解凍し、Drive:¥usr とする。

新しいusr 内は、下記のようなホルダー構造になっています。



2) 【サーバーにPostgreSQL をインストールする】

1) PostgreSQL をダウンロードしインストールする

<http://www.enterprisedb.com/products-services-training/pgdownload#windows>

ユーザーは postgres

パスワードは medicalin とする。

インストール途中で、Finish ボタンをクリック後、スタックビルダへようこそ! という画面になりますが、この画面で、キャンセル ボタンを押して、インストールは終了する。

2) PostgreSQL を他のパソコンからもアクセス出来るように設定する。

PostgreSQLをインストールしたパソコンの、

C:\Program Files\PostgreSQL\9.3\data\pg_hba.conf の下部で、

host all all 127.0.0.1/32 md5 となっているところを

院内のIPに合わせて、host all all 192.168.1.0/24 md5 に変更

注) 上記の例は、院内のIP系が、192.168.1.xx の場合で、192.168.50.xx であれば、

host all all 192.168.50.0/24 md5 という指定になります。

3) PostgreSQL のサーバーのポート(5432)の接続許可をします。

windowsファイアウォールが、on になっていると、PostgreSQLが通信時に使用するポートも遮断される可能性が高いため、念のため、windowsファイアウォールで切断されないように設定します。

PostgreSQLをインストールしたパソコンの、コントロールパネル、システムとセキュリティー、windowsファイアウォール、詳細設定(左カラム)、受信の規則、新しい規則、ポート(0)にチェック、次へ、特定のローカルポートに 5432を入力、次へ 接続を許可する(A) 次へ、次へ、名前:postgres と記入、完了クリック 以上で、設定完了です。

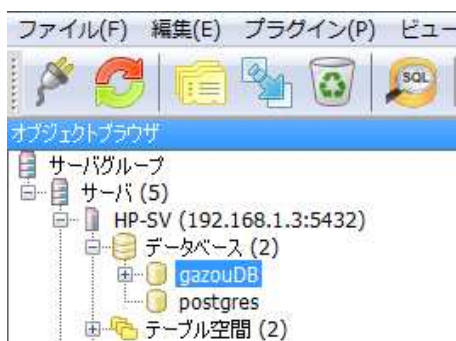
尚、Portの接続を許可しなくても、PostgresをインストールしたPCのwindowsのファイアウォール自体をoff にすると接続は可能ですが、接続を許可しておいた方がトラブルが少ないでしょう。

4) PostgreSQL にデータベース(gazouDB)を作成する。

PostgreSQLのインストール時に、管理ソフト、pgAdmin3.exe が下記にインストールされているので、それを立ち上げ、(象のアイコンがスタートメニューに登録されている場合もあり)

C:\Program Files\PostgreSQL\9.3\bin\pgAdmin3.exe

サーバー名をダブルクリック(下記例では、HP-SV)し、その下の データベースを右マウスクリック、新しいデータベース で **gazouDB** というデータベースを作成する。



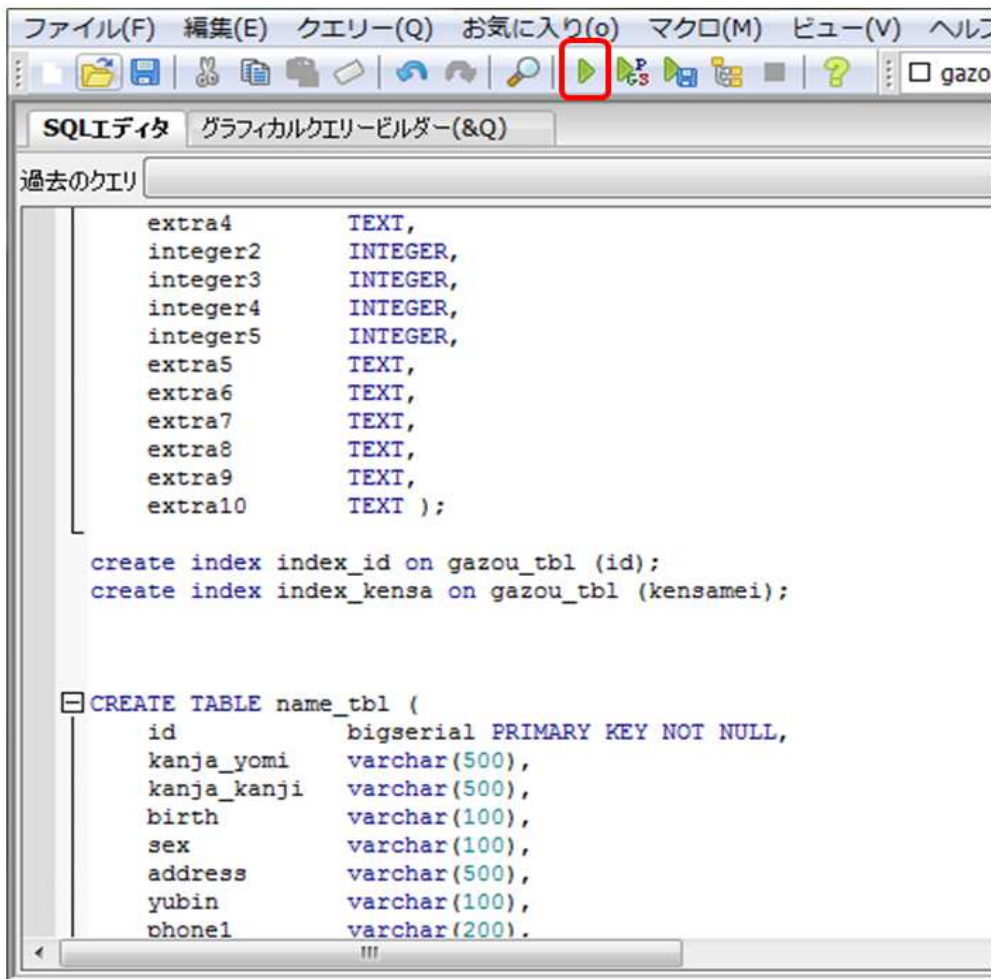
4) 作成したデータベース (gazouDB) に、データを登録するテーブル (gazou_tbl, name_tbl等) を作成する。

pgAdmin3.exe にて作成した データベース gazouDB をクリックするとpgAdmin3.exe の上部メニューに、虫眼鏡の様なSQLアイコンが表示されるので、そのアイコンをクリックすると、



SQLエディターが開きますので、そこに、RS_Baseのバージョンアップファイル内にある

(全部)table2_all.txt を開き、その内容を全部コピーして、SQLエディターにペースト後、上部の緑の三角のボタンをクリックすることにより、SQLが実行され、テーブルが作成されます。



以下、作成されたテーブル(実際のテーブルは今後増えることがあります)



以上で、PostgreSQL 自体のインストール、設定は完了です。

3) 【RS_Base を PostgreSQL 版に変更する】

1) RS_Base を PostgreSQL版のALLバージョンにバージョンアップする

ver150215pgALL.zip (100MB)等。

2) RS_Base 内の csv データベースをPostgres にエクスポートします。

基本情報、(285) 内、

(a) 患者情報name.csvを → PostgreSQLへアップロード(外字を=に変換) (●)

の ● をクリックすると、RS_Baseの患者情報 name.csv が、PostgreSQLのname.tbl に エクスポートされます。

尚、外字がある場合は、= という文字に変わります。

(b) 基本情報、(285) 内、

・画像系 20xx.csv を → PostgreSQLにアップロード(外字を=に変換) (○)

の ○ をクリックすると、画像系データベース data¥data20xx が postgresQLのgazou_tblにエクスポートされます。

こちらも同様に、外字がある場合は、= という文字に変わります。

注)

外字処理で、エクスポート時に止まることはほとんどなくなりましたが、念のためエクスポートlogが、gazouホルダーに作成され、logのファイルサイズが持続的に変わっていれば出力動作が継続しており、動作が止まっていれば、出力が完了したか、途中で止まったかのいずれかです。

出力が完了しない場合は、logファイルの最終行のデータで止まったことになり、どこで止まっているか確認できます。

エクスポートが中断してしまった場合はlogをみて、どこで止まっているかを確認し、止まった行の内容を修正し、再度エクスポートする必要があります。

(再度のエクスポート時は、テーブルを一旦削除後、再作成した方がベターです)

基本情報(285)はサーバの public_html¥data¥dataYYYY.csv ファイルを postgres にアップロードします。エラー等が出て最終的に数件のみアップロードしたい場合には、上記 dataYYYY.csv を一旦別の場所に移動させ、data2014.csvにアップロードしたいデータを入れて

20xx.csv (Posgres 内データ非削除アップロード) (☆) をクリックする追加でアップロードします。

3) データのエクスポートが完了した後、PostgreSQL版のRS_Baseを動かす

- ・サーバーおよびクライアントのRS_Baseがすべて、PostgreSQL版にしておく。

- ・それぞれの、RS_Baseの

基本情報、(285) 内、

(285) : PostgreSQLサーバーIP

にPostgreSQLをインストールしたPCのIPを入力する(通常はサーバーIP)

name.csvもpostgres使用 の設定も yes とする。

以上で、PostgreSQL版のRS_Baseとして動作します。

データベース、画像ファイルの保存場所：

postgres モード では、画像系データベースの読み込み、書き込みは、postgresql に対して行われますが、画像ファイル自体は、今までと同じ、public_html¥Imfidx20xx に保存されて行きます。

○データのバックアップ

1) RS_Base自身では、public_html¥year_back¥PG日付ホルダーに日に3回 csvとして自動バックアップがなされます。

2) RealSync でのバックアップは、サーバーの public_html と共に、RS_Baseが動作していない状態で、PostgreSQLのデータホルダー、C:¥Program Files¥PostgreSQL¥9.3¥data のバックアップとなります。

3) PostgreSQL の自動バックアップソフトを使用し、数時間ごとにバックアップを行う。

<http://www.vector.co.jp/soft/winnt/business/se498266.html> (シェアウェア)

等で、行うことができます。1) + 3) あたりがベターでしょうか。

4) 患者情報の PostgreSQL への追加。

name.csv の患者情報を PostgreSQL にアップロード後、逐次新たな患者のデータを追加、変更する場合は。

- ・ORCA など、BOX 受付に患者情報を出力している場合、

(213) BOX 受け付け用に、IDuke.csv, Syoho.csv を出力するホルダーに出力された、患者情報 IDuke.csv ファイルを、name.csv 及び Postgres name.tbl の両方に読み込みます (特段、新たなことを行う必要はありません)。

- ・c:¥DRS¥kanja.txt の読み込み

c:¥DRS¥kanja.txt のデータが1000件未満だと、RS_Base のリロードにて、Postgres name.tbl に患者情報が読み込まれます。(毎回、全患者の kanja.txt を出力するシステムがあった場合、それをすべて毎回読み込ませるのは負荷になりますので、1000 件未満の kanja.txt のみの PostgreSQL に読み込む様になっています)

- ・ダイナミクスの場合

診察室の public_html¥id_dynamics の共有設定を行い、ダイナ受付で登録ボタンを押す端末(複数可)のダイナミクスのリンクバー他社連携、にて、出力先を、上述 id_dynamics ホルダーを指定し、出力のタイミングを 登録確認時、カルテ番号の枝番あり に指定すると、受付のダイナミクスから id_dynamics に出力された患者情報は

- 1) 診察室の web 受付のリロード
- 2) 診察室の BOX 受付のリロード(下部メニュー：患者情報読み込み(pg)を id_dynamics を指定)

のいずれかにて読み込まれます。